

## 質疑応答

Q.(グループインタビューをした)87人の根拠は？

A.根拠はない。いろんなことを網羅的に聞きたいということで、企画政策課の職員が老若男女いろいろな方に声をかけた。知り合い同士が同じグループにならないように配慮し、インタビューした。思いついたことをどんどん言っていただいた。

Q.アンケート対象者を無作為に6,000人選んだ方法は？

A.住所ごとに38万人を並べ、一定間隔で選んだ。等間隔抽出法と言う。

Q.第5次総合計画までと第6次総合計画の大きな違いは？

A.2つある。

1つは、作り方。第5次総合計画までは、こういう事業をやりたいということがあって、それを寄せ集めて計画にしたというきらいがあった。第6次総合計画は、まず目標を立て、そのために何をするかという作り方。言わば5次総は下から、6次総は上から作った。

もう1つは、目標に向かって進んでいるかどうかを測れるものが今まではなかった。第6次総合計画はそういうことを測る尺度(まちづくり指標)を置いた。

Q.この計画には予算との関連が出てこないが？

A.目標に対して有効かどうかがいちばん大切。予算の話は、有効かどうかをきちんと見たうえでやれるかどうかを考えるべきだということで、あまりこの計画に予算のことは出していない。予算の計画がないと言われればたしかにそのとおり。

Q.常識的に考えると、人口減少や繊維産業を発展させていくことが大きな問題になるべき。にも関わらず生活課題ばかりが出ている。繊維や人口減少をどういうふうに解決していくのか、どういう目標を立てるのか、今回の計画では触れられていない。表現として「活気あるまち」とありながら、そういうところでどういう手立てをするのか全然見えてこない。そのあたりが疑問。指標と言われてもしっくり来ない。そういう計画が市の10年の基本計画でいいのかなと思う。

A.目指すべき姿に「産業の振興」がある。が、具体的に何をやるかは詳細には書いていない。総合計画ではまず目標を明らかにし、具体的に何をやるかはその時々有効な事業を考えていこうという考え方をしている。それについては毎年度実施計画を策定し、その中で明らかにする。

委員：

総合計画策定市民会議の委員をやっていた。この計画は、持ち上げようではなく、今より悪くならないようにしようというものかと個人的には思う。

委員：

人口減少のまちは活気あるまちではない。マスタープランというものは、活気あるまちにしていくために、新一宮市として、こうやって産業を発展させ、それによって人口を増やし、税収を伸ばし、暮らしがよくなる、ということだと思う。しかし、この計画ではそれが見えてこない。残念に思っている。

Q.自治基本条例を作ったら、総合計画を見直すのか？ 総合計画より自治基本条例の方が先ではないか？

A.総合計画は市としてこういうことをやっていくという具体的なことが書いてある。自治基本条例はそこまでは書かないのでは？

事務局：

一般的に、総合計画は「まちの内容」、自治基本条例は「まちの作り方、ルール」と言われている。しかし、まちづくりの基本理念は双方に書くことが出来る。なので、もし万が一、総合計画と自治基本条例で基本理念が食い違えば、例えば、総合計画では協働・連携と言われているが、自治基本条例の中で「一宮市は協働はしない。行政に全てお任せする。」という基本理念になれば、何らかのアクションがなされるべきと考えている。

ファシリテーター：

市民憲章、総合計画、自治基本条例、個別の条例等、一宮市を形作っていく様々なパーツがある。その中で自治基本条例はどういう位置付けになるのかを松下先生を交えて今後議論を深めていきたい。

Q.(少子化対策や繊維産業の振興に)事業提案がある方は、今度の総合計画推進市民会議に参加されればいいのでは？

A.ぜひご参加ください。

Q.人口が減ることなので、総合計画に少子化対策はあげられないのか？

ファシリテーター：

少子化対策とはっきり言っていないが内容的には書いてある。子育てしやすい環境づくりと  
いうところでかなり項目が挙がっている。

意見・総合計画策定市民会議委員をやっていた。

目指すべき姿のどれがいちばん優先かを考えたら、29番の「商工業が発展する活気あるまちである」になると私は思う。どうすればこの問題が解決していくかは、この会議、あるいは今度の総合計画推進市民会議で出てくると信じている。

また、まちづくりを進めるためにはルールや条例が裏づけとして必要だと思う。

ファシリテーター：

解決策は、考える会では出にくいと思う。どういうまちにするかは総合計画の会議の中で議論されている。考える会は仕組みを考えると、どういう仕組みがあれば総合計画の中に書いてあることがよりよく実現していくのかを考えると。しかし、「ルールや条例が裏づけとして必要」というのはその通り。

意見：まちづくりの目標に「連携」を追加したのが（市民ではなく）行政だったということが大きな問題。今までは、税金の見返りとして行政サービスを受けるという一方通行であったのが、これからは双方向ということを一でも多くの市民に浸透させていくことが必要。これからは役所だけでは出来ないという意識改革がもうすでにスタートしていると思う。皆さん（市民）のほうから「連携」が出てこない、手作りで一宮市を作るといふことにはなかなか出来ない。これからは自分たちで何が出来るかということを考えていかなければならない。その仕組みを基本理念の中に加えていければよいと思う。

Q. 「まちに活気を」と言うが、「活気」の捉えかたが重要。お金がある活気だけではなく、今の時代にあった活気を模索することが今回のあり方だと思う。今、新たなまちのあり方を考えていくことが求められていると思う。その意味で、人口や産業もいいが、市民活動の盛り上げが新しい時代のあり方だと思う。

また、役割分担値の中で「町内会・ボランティア団体・NPO」がひとくくりされていることが問題だと思う。分かりやすくするためにひとくくりとしているのならよいが、そうでないのなら今後の動きとして混沌とする可能性があると思うが？

A. 自治基本条例の中では、その違いとか特性を生かした形でやっという議論をされると

よいのでは。

意見.何かあると「一宮ガラス(烏)だから仕方ない。」で済まされてしまう。「一宮ガラス(烏)」をクリアしていけば何か見えてくるものがあると思う。

Q.総合計画推進市民会議は具体的には何をやるのか？

A.計画で目指している方向に進めていかなければならない。そのための作業として、次のようなことをお願いしたい。

まちづくり指標の数値変化を明らかにするので、それを見て市民からはこう見えるということで評価をしてほしい。市は市で評価する。

ロジックモデルを使った新規事業や事業改善の提案。詳細は、市民会議に参加していただければ説明する。難しいが一緒に苦労してやってほしい。

市民活動の広報・啓発。市民会議の中だけでなく、広く市民に知らせ、一緒にやっていきましょうという気分を高めてほしい。

Q.推進市民会議は前年度の準備会議と似たものか？

A.準備会議はロジックモデルを使った事業提案の練習だった。今年度は、それに評価の部分も加えたい。